

稲毛区 いなげ子育てフォーラム～点から線そして輪（WA）へ～

「稲毛・こどものWAねっとわーく」は、稲毛区内全域における、子どもに関わる公的機関・NPO・子育て支援団体・個人の小さな活動も含めたさまざまな活動団体の方々へ声をかけ、お互いに「顔の見えるつながり」を作ることをめざし、情報交換交流会として、これまで3回の『いなげ子育てフォーラム』を開催してきました。

【フォーラムの様子】

平成29(2017)年7月、第2回フォーラムでは、平成29(2017)年1月に開催された第1回フォーラムの参加者から出された課題やご意見を踏まえ、「活動の継続に向けた人材募集・人材育成」というテーマで意見交換などを行いました。各活動の課題解決や充実、広がりに向けてどのようなことができるかを考える場となりました。



第1回フォーラム～普段抱える悩みをこの場で～

地域で子育てをしている方のほか、子どもや保護者と直接関わり、子育てに関する支援を行う方、支援する組織を運営する方、学生等、さまざまな立場の方が参加されています。

参加者からは、「どっこも同じ悩みがある。苦労を分かち合えた。」「横のつながりができたことが大きな収穫。」「さまざまな視点での話を聞くことができ、より稲毛区を知ることができた。これからさらに飛躍していける地域だと感じた。」といった前向きな感想がありました。また、「継続してほしい」と好評をいただいております。今後の継続・発展が期待されます。



情報交換コーナー



いなげ子育て活動紹介冊子『おたからぼけっと2016』

【団体設立までの道すじ】

- 「ちば・子育て応援しよう会」により、平成28(2016)年度稲毛区地域活性化支援事業に応募・採択
- 事業を実行する組織として、「いなげ子育てフォーラム実行委員会」を設立

【平成28(2016)年度活動】

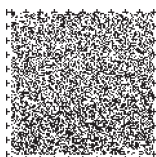
- 平成29(2017)年1月
「第1回 いなげ子育てフォーラム」開催
- 『おたからぼけっと』（いなげ子育て活動紹介冊子）、乳幼児向け子育て支援活動チラシ作成
- 平成29(2017)年2月
実行委員会メンバーを中心とした「稲毛・こどものWAねっとわーく」設立

【平成29(2017)年度活動】

- 平成29(2017)年7月
「第2回 いなげ子育てフォーラム」開催
- 平成29(2017)年12月
「第3回 いなげ子育てフォーラム」開催

代表（菊池さん）は、これまで「千葉市子育てサポーター」として教育委員会の委嘱を受け家庭教育支援チームの活動や「ちば・子育て応援しよう会」代表としての活動等、長期にわたり子育て関係の支援に携わってきました。

まずは、自身が居住している小中台地区において、子育ての支援をしている個人や団体についての情報収集・提供、場づくり、子育てミニフォーラムの開催等を通じた地域のコーディネート活動を展開しました。活動の内容に応じてコーディネートを行っていたところ、狭いエリア内で活動が収まることはありませんでした。また、以前から区域で子育てフォーラムを開催している若葉区の活動を参考に、より広いエリアでネットワークをつくりたいという思い



を、市社協稲毛区事務所に伝えたことがきっかけとなっ
ています。

設立メンバーの集結には、市社協稲毛区事務所コミュニティソーシャルワーカーが一役買っています。構成メンバーには、一見子育てとは無縁のような活動をされている方も。現在、子育てサポーターをはじめ、まちづくり関係のNPO法人、大学関係者、福祉施設関係者、おもちゃインストラクター等が中心メンバーとなっており、各々が持つ知識や問題解決のノウハウ、ネットワーク等を活かして活動しています。

【稲毛・こどものWAねっとわーくの活動】

■めざすこと

稲毛区内の子どもに関わる個人・団体が連携・協力し、さまざまな活動が「点」から「線」となり、「線」がつながり「輪(WA)」となるように、お互いに『顔の見えるつながり』をつくるとともに、誰もが子育てしやすい地域づくりを推進するため、地域力を活かしながら、子ども達が生きる力を育むことができる環境づくりをめざしています。

稲毛区は「文教のまち」として比較的若い世代が活躍する地域であるという背景から、子ども分野に特化した中間支援組織(※)として活動しています。

(※) 中間支援組織…直接、子どもや高齢者等への支援・サービスを行うのではなく、そのような活動の支援(中間支援)を行う組織。例えば、グループづくり、団体の運営、ネットワークづくり、活動ノウハウの共有、調査、自治体などへの提言等。なお、当団体は、市民活動支援センターのような支援対象の活動分野を問わない「一般型中間支援組織」ではなく、特定の活動分野についての専門性を備えた「領域特定型中間支援組織」という点でユニーク。

■おたからぼけっと作成

稲毛区内の子育て支援に関する団体の情報を集めました。特徴は、団体が「お手伝いできること」のほか、「お手伝いしてほしいこと」を掲載している点です。冊子を見て、各団体へ問い合わせる人が増え、じわじわと反響を感じています。現在は、行政(健康課や公民館)等と連携しながらおたからぼけっとBaby(乳幼児親子向け)の発行の準備をしています。

【活動の工夫】

■つながるコツ

「身近なところで」「顔と名前が一致する関係」を作ることです。団体名と役職だけではなく、「〇〇の□□さん」というように、地域という名前の人はいません。一人一人の人のつながり、関係づくりが育まれる場として地域を捉えたいと思います。また、組織の活動圏域や形態に捉われず「子育て」を通してつながることです。

■中間支援組織というスタイル

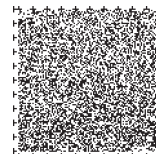
代表(菊池さん)は、「ちば・子育て応援しよう会」等の活動で、地域ぐるみの子育てを考えて自分たちが出来ること・やりたいことに取組んできたところ、「あなたたちがやっていることは中間支援である」と、他の方から言われるようになったとお話されていました。

地域にはすでに素晴らしい活動がたくさんあります。常に新しい情報を入れながら、子育て中の方や支援をしている方に声をかけ、互いの活動情報を共有し、個々の活動の背景や歴史を大事にしながら、地域課題の解決に向けてコーディネートする役割を担ってきました。

一番難しいと感じているのは、「地域の中に、コーディネート機能の必要性の共通理解があるか」という点です。また、コーディネーター自身が目立つのではなく、皆が活動して良い成果を出しているということこそが素晴らしいことだと感じながら活動しています。

このような取組みが、本計画の中で多世代共生のまちづくりにおいても子ども分野の視点から寄与できるようになることを期待しています。

問合せ先 千葉市社会福祉協議会稲毛区事務所内
TEL:043-284-6160 FAX:043-290-8318
E-mail: inage.kodomonowa@gmail.com
URL: https://inage-kodomonowa.jimdo.com/



第1章
地域福祉計画とは

第2章
現状と経緯

第3章
計画の概要

第4章
各区の好事例

第5章
地域の取組み

第6章
市の取組み

第7章
地域・社協の協働・策

第8章
計画の推進

資料編